

国分寺崖線景観基本軸の景観形成基準に対する措置状況説明書（建築物の建築等）

当該行為における景観形成に関する考え方	
記載欄	
(1) 配置	
	国分寺崖線の緑の景観が連続するような配置とする。 記載欄
	壁面の位置の連続性や適切な隣棟間隔の確保など、周辺の街並みに配慮した配置とする。 記載欄
	敷地内や周辺に歴史的な資源や残すべき自然などがある場合には、これらを生かした配置とする。 記載欄
(2) 高さ・規模	
	高さは、崖線の緑や周辺建築物群のスカイラインとの調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。特に崖線の樹木に隣接する敷地では崖線の低地部から見たときに、崖線の台地部の樹木の最高高さを超えないよう工夫する。 記載欄
	周辺の主要な眺望点（道路・河川・公園など）からの見え方に配慮し、国分寺崖線の景観との一体性や調和を図る。 記載欄
(3) 形態・意匠・色彩	
	形態・意匠は、建築物自体のバランスだけでなく、国分寺崖線の緑や周辺の街並みとの調和を図る。 記載欄
	外壁は、長大な壁面を避けるなど、圧迫感の軽減を図る。 記載欄
	色彩は、別表2に定める色彩基準に適合するとともに、周辺景観との調和を図る。 記載欄
	屋根・屋上に設備等がある場合は、建築物と一体的に計画するなど周囲からの見え方に配慮する。 記載欄

建築物に附帯する構造物や設備等は、建築物本体との調和を図る。
記載欄

(4) 公開空地・外構・緑化等

国分寺崖線への日照や開放感のある視界を確保するよう配慮して、オープンスペースを確保し、隣接するオープンスペースと連続性をもたせる。

記載欄

敷地内はできる限り緑化を図り、周辺や崖線の緑と連続させる。また、屋上や壁面の緑化を積極的に検討する。

記載欄

緑化に当たっては、崖線の植生に調和した樹種を選定するとともに、植物の良好な生育が可能となるよう、植栽地盤を工夫する。

記載欄

敷地内に湧水などの水辺がある場合は、これらを生かした空間を形成するとともに保全を図る。

記載欄

夜間の景観を落ち着きあるものにするため、宅地部や田園部の閑静な街並みでは、過度な照明を使用しない。

記載欄

外構計画は、敷地内のデザインのみを捉えるのではなく、隣接する敷地や道路など、周辺の街並みと調和を図った色調や素材とする。

記載欄

上記以外で特に景観に配慮した事項

--